

ろうさい ニュース

令和3年

5月号

第441号

当院に患者さんをご紹介くださっている先生方には、感謝申し上げます。

地域の皆様からの信頼に応え続けるために「アットホームなハイクラスの病院」を理念に取り組んでいます。



ごあいさつ

患者支援センター長 西澤 純一郎

先生方はじめ、関係者の皆様方には、日頃より、ご紹介、ご協力、ご支援を頂き、大変お世話になり、誠にありがとうございます。心より感謝しております。

さて、当院では、心臓血管外科部長として、14年間、働かせていただきました。昨年10月、ご存じの通り、最新、かつ、豊富な手術・診療経験を持つ島本健先生が、心臓血管外科新部長として着任してくれました。私としましては、手術などの観血的治療は島本部長らにまかせて、心臓血管外科では外来のみとし、副院長業務を充実させるとともに、健康診断部長をさせていただいております。そして、今年度より、患者支援センター長、および、地域医療連携委員長を拝命いたしました。



当院の患者支援センターは、地域医療連携室、入退院支援室、医療福祉相談室、治療就労両立支援の4部門から成ります。特に、地域医療連携は、言うまでもなく、皆様方と当院をつなぎ、本当の意味での医療を担っていく、重要な部門であります。そして、何かと制限の多いコロナ禍の今であるからこそ、重要度が更に高まっていると感じております。この地域の、皆様方に満足していただける医療、患者さんやご家族に寄り添える本来の医療に、少しでも近づけるように、そして、皆様方が医療を行っていく上で、できる限りお力になれるように、努力してまいります。

また、皆様方には、ご不便・ご迷惑をおかけしているところも、多々あるかと思えます。そういった点など、ご遠慮なく、忌憚のないご意見・ご指導を、いただきますよう、お願いいたします。少しずつでも改善していき、皆様方のご要望に、できる限りお応えし、皆様方や患者さんの信頼と愛着を、更に確保していきたいと思っております。

微力ながら、スタッフ一同、更に、努力、邁進していきたいと思っておりますので、引き続き、何卒よろしくお願いいたします。

患者支援センターのご案内

患者支援センターの機能

- ・地域医療連携室
- ・入退院支援室
- ・医療福祉相談室
- ・治療就労両立支援室

場所は、正面玄関入って右側の⑦医療相談窓口・入退院支援室、⑨地域医療連携室になります。看護師5名、MSW3名、事務員4名が常駐しています。

患者支援センターの役割

地域医療連携室	開業医の先生病院の先生からの紹介を受け付けている。 紹介元医療機関へ患者さんの受診の報告をしている。
入退院支援室	地域の医療機関、介護サービスの方々と連携し、入院・退院の支援を行っている。
医療福祉相談室	外来通院・入院されている方の病気に伴って生じる生活上の様々な問題について ソーシャルワーカーが相談を受けている。
治療就労両立支援	働く人が、がん・脳卒中・糖尿病でやむなく治療せざるを得ない状況になった場合、 就労に関する支援を行っている。



患者支援センター窓口

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努め、運用しています。
(飛沫対策、検温、問診等)



地域医療連携室スタッフ



認知症の画像検査について

放射線科部長 山下 修平

当院では「画像診断機器共同利用による地域連携」に取り組んでおります。今回は、当院で提供可能な、認知症に関連した画像検査・画像診断についてご紹介いたします。

MRI

形態的变化をきたす疾患に関する検査となります。以下のような場合に特に有用です。

1. 外科的介入によって症状の改善が見込まれる、特発性正常圧水頭症や脳腫瘍の可能性についての評価。
2. アルツハイマー型認知症、前頭側頭葉変性症のように、脳の形態的变化をきたす神経変性疾患の可能性についての検討。
3. 脳血管性認知症、脳アミロイドアンギオパチー等の脳血管障害の可能性の検討。

これらの病態をできる限り1回の検査で完了できるよう、出血病変に鋭敏なT2*強調画像、形態的变化をとらえるための3方向の再構成画像の作成やVSRAD（早期アルツハイマー型認知症診断支援システム）の活用、場合によってはMRAによる脳・頸部血管病変の検索などを行っております。

なお、これらの検査は原則、造影剤を使用せずに行いますが、脳腫瘍の詳細評価が必要な場合は後日、造影MRIでのさらなる精査が必要となります。また、何らかの理由でMRIが施行困難な患者さんの場合、まずはCTを施行していただくのも一法かと存じます。その際も、3方向の再構成画像の提供は可能です。

核医学検査

脳の代謝や脳や心臓の神経機能の異常についての検査となります。以下の3種類の検査が施行可能です。

1. 脳血流シンチグラフィ

アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症などについて、特徴的な脳血流量低下が起きるため、鑑別に有用です。脳血流量の変化をとらえる際の参考となるよう、様々な統計学的画像処理も行い、提供させていただきます。

2種類の放射性薬剤（ $^{123}\text{I-IMP}$ 、 $^{99\text{m}}\text{Tc-ECD}$ ）に対応しておりますので、ご依頼時にご指定下さい。また、いずれの薬剤においても、脳血流量の定量解析も施行可能です。

2. ドパミントランスポータシンチグラフィ（ダットスキャン®）

レビー小体型認知症においては、線条体のドパミントランスポータ密度が低下しますが、アルツハイマー型認知症では低下しないため、両者の鑑別に有用です。薬剤集積の程度をSBR（Specific Binding Ratio）として定量し、健常者と比較した結果も提供させていただきます。なお、検査薬剤に微量のアルコールが入っておりますので、アルコール過敏症の患者さんについては注意が必要です。また、併用注意薬がございますので、ご依頼いただいた場合は併用注意薬についての情報も提供いたします。

3. $^{123}\text{I-MIBG}$ 心筋シンチグラフィ

レビー小体型認知症においては、心臓の交感神経機能に変調をきたしますが、認知症の原因となる他の疾患では多くの場合、心臓交感神経への影響は生じません。このため、レビー小体型認知症の診断に有用です。心・縦隔比や洗い出し率の解析結果も提供いたします。当検査につきましても、併用注意薬がございますので、ご依頼いただいた場合は併用注意薬についての情報も提供いたします。

令和3年度浜松EAST医療連携セミナーの開催予定

本セミナーは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集合視聴及び個人視聴のハイブリッド形式で開催します。

なお、日時等の詳細については、決定次第、御案内いたします。

2021年 7月 消化器内科

2022年 1月泌尿器科

9月 脳神経外科

3月心臓血管外科

11月 整形外科

独立行政法人 労働者健康安全機構

電話 053-411-0366

受付時間

浜松ろうさい病院 地域医療連携室 fax 053-411-0315 月～金 8:15～18:00 土 8:15～12:00